

# 一般社団法人日本解剖学会 2019(平成31)年度第5回理事会議事録

日時：2019(平成31)年3月26日(火) 16:10~18:10

場所：日本歯科大学新潟生命歯学部 (4号館2階セミナー室)

出席者：岡部繁男(理事長)、木山博資、寺田純雄、仲嶋一範、八木沼洋行(以上常務理事)、  
牛木辰男、大塚愛二、小澤一史、城戸瑞穂、小路武彦、佐藤 真、篠田 晃、島田昌一、千田隆夫、  
中村桂一郎、西 真弓、藤本豊士、藤山文乃、渡部 剛(以上、理事)、松村讓兒、渡辺雅彦(以上、  
監事)、阪上洋行(以上常任幹事)、宍戸基行、中村 聡(以上、口腔保健協会)

欠席者：松崎利行(常任幹事)

## I. 理事長および第124回総会・全国学術集會会頭 挨拶

岡部理事長と影山幾男会頭より挨拶があった。影山会頭より2000(平成12)年の神奈川歯科大学以来の歯学部が主催となる今回の全国学術集會の参加者、演題数、プログラム内容について説明された。

## II. 議事録署名人の確認

定款第39条の規定により、松村・渡辺両監事が議事録署名人として選出された。

## III. 会議記録の確認

以下の議事録が確認された。

- (1) 2019(平成31)年度第1回理事会(平成31年1月26日開催)議事録(案)
- (2) 2019(平成31)年度第2回理事会(平成31年2月12-18日開催)議事録(案)
- (3) 2019(平成31)年度第3回理事会(平成31年2月18-24日開催)議事録(案)
- (4) 2019(平成31)年度第4回理事会(平成31年3月18-20日開催)議事録(案)

## IV. 報告事項

### 1. 庶務報告

- (1) 年会費納入状況について(長期未納者の除名について)  
資料に基づき、年会費未納入者リストが確認され、会費4年以上の会費未納入者については、今回の全国学術集會終了後までに納入されない場合、除名処分となることより、所属支部会の未納者に対して年会費納入を促すよう協力を求めた。
- (2) 教授就任による代議員承認について  
資料に基づき、教授就任による代議員申請1名(栗本一基氏・奈良県立医科大学・発生・再生医学講座)について常務理事会で承認されたことが報告された。
- (3) 男女共同参画学協会連絡会報告  
資料に基づき、男女共同参画学協会連絡会第17期第2回運営委員会(2019年3月27日開催予定)については、全国学術集會会期中であるため、解剖学会からは欠席予定であることが報告された
- (4) その他  
特になし

### 2. 編集報告

- (1) ホームページアクセス解析報告  
資料に基づき、アウトリーチ委員会の佐藤真委員長(大阪大・医)から、学会ホームページへのアクセス内容に関する解析結果が報告された。昨年度の総アクセス数は93,420件で、本学会ならではの特徴として解剖学会用語ページへのアクセス頻度が高い(8.80%)ことが指摘された。
- (2) その他  
特になし。

### 3. 企画・渉外報告

- (1) 2019(平成31)年度第124回総会・全国学術集會準備状況について  
資料に基づき、第124回総会・全国学術集會の最終プログラム内容が説明された。例年と異なる点としては、篤志解剖全国連合会の日程が1日であること、ポスターが大会期間中掲示され続けること、新たな試みとして若手研究者の集いが開催されることなどが挙げられた。
- (2) 2020年度第125回総会・全国学術集會準備状況について  
資料に基づき、篠田 晃次期会頭(山口大・医)より、第125回総会・全国学術集會準備状況が報告された。大会期日(2020年3月25日から27日)、会場(ANAクラウンプラザホテル宇部)、大会方針、大会テーマ(世界を動かすカタチの時空芸術 ~アナドルなかれアナトミー~)、プログラム委員会構成などの説明とともに、宿泊場所は宇部市と山口市(新山口駅周辺)で確保し、シャトルバスの運行を検討していること、演題募集時期は例年と比べて1ヶ月程度早めることが報告された。
- (3) 認定二級技術者審査結果について  
資料に基づき、認定解剖組織技術者審査委員会による2019年度認定二級解剖・細胞組織技術者資格審査の結果(1名合格)が報告された。
- (4) 技術職員に関するアンケートについて

資料に基づき、昨年度実施した技術職員に関するアンケートに関する暫定集計結果が報告された。アンケート分析結果から伺える大学や解剖学関連講座での技術職員の現状や勤務形態、サージカルトレーニング導入による負担の増加の現状や問題点などが説明された。

(5) 日本医学会・日本医学会連合報告

資料に基づき、①日本医学会連合加盟学会連絡協議会(2019年2月5日開催)の議事内容とともに、「研究発表に当たっての共通倫理ガイドライン(略称 医共通指針)」に関するアンケートに対して、本学会として作成作業への参画を希望するとの返信をしたこと、②日本医学会定例評議委員会(2019年2月22日開催)において、日本脳神経血管内治療学会、日本骨粗鬆症学会、日本アフェレンス学会の3学会の2018年度新規加盟が内定したこと、副会頭の3名から4名体制への変更が承認されたこと、③本学会が日本癌学会と日本寄生虫学会とともに当番学会として開催した日本医学会連合による基礎部会所属学会の若手研究者の活性化を目的としたRising Starリトリート(2019年3月4日開催)の実施内容、④日本整形外科学会基礎学術集会におけるCadaver Trainingに関する日本医学会連合加盟学会連携フォーラムの実施予定(2019年10月17日)が報告された。

(6) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、生物科学学会連合・第19回定例会議(2019年4月2日開催予定)に野田泰子次期企画・渉外担当理事(自治医大)が出席予定であることが報告された。

(7) 日本脳科学関連学会連合報告

資料に基づき、第12回日本脳科学関連学会連合評議委員会および第20回運営委員会(2019年5月19日開催予定)に岡部繁男理事長(東京大・医)と西 真弓次期編集担当理事(奈良医大)、野田泰子次期企画・渉外担当理事(自治医大)が出席予定であることが報告された。

(8) 学術委員会アンケートについて

資料に基づき、学術委員会により実施される2019(平成31)年度総会・全国学術集会に関するアンケート内容が報告された。

(9) IFAAについて

資料に基づき、IFAAからの要請に応じて、第19回国際解剖学会会議(The 19<sup>th</sup> IFAA congress, ロンドン, 2019年8月9-11日開催予定)に関する情報を、OHASYSと学会ホームページで会員に周知したことが報告された。

(10) 「若手研究者の会」ランチョンセミナーについて

資料に基づき、第124回総会・全国学術集会第3日目に開催予定の第1回「若手研究者の会」の発足に関するランチョン企画内容が報告され、シニア研究者も含めて多くの会員の参加を促すよう協力を求めた。

(11) その他

特になし。

4. 会計報告

(1) 2019(平成31)年度中間決算書について

資料に基づき、2019(平成31)年度2月次中間決算書(2019年2月1日から2月28日)の内容が報告された。

(2) 日本外科学会C S T推進委員会報告

資料に基づき、平成30年度第2回C S T推進委員会の議事内容が報告され、今後、C S TにおけるNPO法人の関わりについてアドホック委員会で審議されることが説明された。会員にC S Tの現状に関する情報提供を継続していくことが説明された。

(3) その他

特になし。

V. 審議事項

1. 2018(平成30)年度決算および業務監査報告の件

資料に基づき、2018年度の決算について報告された。独立監査人による監査報告書とともに渡辺雅彦監事から会計および業務実施状況に関する監査報告書の結果が説明され、健全な会計状況と適切な事業運営であると判断されたことが報告された。なお、渡辺監事より、将来の解剖学領域の教育研究を担う若手育成を含め学会が抱える課題は多岐にわたるようになってきており、常務理事会と理事会のさらなる機能強化とリーダーシップを期待する、という松村・渡辺両監事からの提言がなされた。審議の結果、今後、提言に沿って、若手研究者の育成と入会員数の減少に対する対策を進めて行くことでも了承された。

2. 2019(平成31)年度予算および事業計画の件

資料に基づき、2019年度予算および事業計画の内容が説明され、審議の結果、承認された。

3. 2019(平成31)年度定時社員総会資料と議長の確認

資料に基づき、2019年度定時社員総会理事会資料の内容が説明され、慣例に基づき議長として第124回全国学術集会会頭の影山幾男氏を選任することが提案され、承認された。

4. 会員減少の経過分析について

資料に基づき、最近の新人会員の減少の原因を分析するために行った本学会の会員数の年度推移と解剖学関連の講座数と常勤教員数の変化などに関する調査結果が報告された。会員数の著明な減少が1995

年から2007年度まで認められたが、それ以降、会員数の大きな減少は認められない。会員数の今後の推移を注視し、対応策を継続的に検討する必要があることが報告された。理事から学部学生・修士学生の支部学術集会への参加促進のための各支部での取り組みに関する意見が出され、審議の結果、新入会員の増加のための方策について継続的に検討することで了承された。

5. 小出会計監査人への感謝状贈呈について  
資料に基づき、本学会会計監査人の小出将恵氏が2019年度定時社員総会終結時をもって退任されることが報告され、小出氏の本学会運営への長年にわたる貢献に対して、感謝状を贈呈することが提案され、承認された。
6. 韓国解剖学会との交流協定締結と今後の進め方について  
資料に基づき、韓国解剖学会(KAA)との若手研究交流に関する協定書の締結について報告された。今後、若手研究者を主体とする連携シンポジウムなどの学術交流プログラムを相互に隔年で学術集会時に実施するとのKIAA側からの提案内容が説明された。審議の結果、了承された。また、2020年度第125回総会・全国学術集会におけるKAAとの連携シンポジウム内容に関しては、審議の結果、学術委員会と海外交流委員会でKAAとの学術交流プログラム内容を検討してもらうことで了承された。
7. 「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」の英文タイトルについて（理事長）  
資料に基づき、「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」の英語タイトル案として'Guidelines for the research involving cadavers'が提案され、審議の結果、了承された。
8. その他  
特になし。

上記の2019年度 第5回理事会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人（監事）はここに記名押印する。

年（令和 年） 月 日

一般社団法人 日本解剖学会

議長

署名人

署名人